平成３０年度第１回白河市総合教育会議

議事録

１　期　日　平成３１年１月１８日（金）

２　場　所　白河市役所　４階　全員協議会室

３　開　会　午後２時

４　出席者

（１）　構成員

職名		氏名
市　　長		鈴木　和夫
教育委員会	教　　育　　長	芳賀　祐司
	教育長職務代理者	金子　英昭
	委　　員	鈴木きよ子
	委　　員	永山　　均
	委　　員	沼田　鮎美

（２）　市職員

職名	氏名
市長公室長	藤田　光徳
市長公室参事兼企画政策課長	今村　雅隆
市長公室企画政策課長補佐兼企画政策係長	渡邊　正俊
市長公室企画政策課企画政策係主査	水野谷　千春
教育委員会事務局次長	菊地　浩明
教育委員会事務局参事兼教育総務課長	水野谷　茂
教育委員会事務局教育総務課課長補佐兼総務係長	宮尾　宏樹
教育委員会事務局学校教育課長	根本　秀一

５　議　事

（１）市教育大綱に基づく「自ら学び、自ら高める」取り組みについて

① 学力向上

② 教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために

（２）その他

６　閉　会　午後３時

１．開会

○**事務局（司会）**　平成３０年度第１回白河市総合教育会議を開催する。
原則通り会議を公開とし、傍聴を許可する。

２．議事（１）市教育大綱に基づく「自ら学び、自ら高める」取り組みについて
①学力向上

○**事務局（司会）**　白河市総合教育会議設置要綱第４条第３項の規定により会議の議長は市長とする。

○**鈴木市長**　議事（１）の①学力向上について、事務局より説明を求めます。

○**事務局**　教育大綱の３つ目に位置づけられている、「自ら学び、自ら高める」取り組みについて、市内の子どもたちの学力の実態は、平成２６年度以降の全国学力・学習状況調査で国語と算数・数学を平均すると、ほぼ小中学校ともに全国平均を上回っております。白河市の子どもたちは、県内でも上位の成績を残しております。

課題としては、「自ら学び、自ら高める」ためには、自分自身が目標を持って取り組む自己マネジメント力の育成であり、学力向上の目標は、平均正答率が全国平均より上回ることです。

次に、「自ら学び、自ら高める」取り組みとして、児童生徒自らが自分の生活をコントロールして、興味を持つ学習に取り組めるようにするため、学校図書館を整え、図書館で自主的に学習を進められるよう司書の配置を進めております。また、学校の図書にバーコードを張り、貸し出しがしやすく、データベース化しているため、借りている状況がすぐに把握できるようになりました。今年度、中央中で図書室がリニューアルオープンし、来年度は白河二中に配置されると、司書の配置が完了します。子どもたちにとっては、本を借りる環境が整っているので、積極的に借りるような状況になっております。

○**鈴木委員**　地元の中学校では塾通いしている子どもがすごく多いと感じています。生徒の７～８割と聞いており、多くの時間を学習に費やしていると思います。本当に学校が一所懸命やっていますが、子どもたちは塾のお世話になって、成績を上げていると感じています。

○**金子委員**　全国平均を超えているのは、家庭や学校、地域が関係している要素

が増えているためと思います。１日の生活リズムができているか、家庭の温かい雰囲気の中で学習に取り組めるか、保護者の方々も教育に関心があるか、本人がいろんなものに対して意欲的に取り組むような姿勢を持っているかなどが根にあって、その子たちが学校に行って、学校で迎える先生方が専門性の高さや指導力の良さ、子どもへの愛情など、良い出会いあると学力が伸びると思います。

また、白河市は図書館に力を入れていますが、地域の文化教育施設が充実しているかというのも、目に見えない形で関連があると思います。

○**教育長**　以前、全国学力テストと家庭での子どもとの関わり方を調べたデータがあります。その中で保護者が文化芸術、自然体験に関する働きかけを多くやったかどうかを調べ、多くやった子どもは、学力が高いという結果が出ています。つまり、地域にある博物館や科学館、図書館、美術館、劇場などに子どもを連れて行くことで、子どもたちの学力が高くなると言えます。この意味では、市の図書館は２５万冊もあってすばらしい施設であり、学校司書も配置されており、子どもたちに与える影響は大きいと思います。

○**永山委員**　子どもが小さいうち、特に小学生は、家庭の力よりも学校の力が大変影響していると思います。小学生は特に興味を持つということが学力に影響します。これがだんだんと中学校、高校に向けて、学力で目指す人やスポーツ・体育で目指す人など分かれていくとは思いますが、小学生、中学生の義務教育の間は、勉強していただきたいと思います。

○**沼田委員**　中学生は塾に通っていると思いますが、表郷地区にはほとんど学習塾がないので、小学生に関しては、ほとんど自分の家で自主学習をしています。学校別で成績表が出てくれば、どこにどんな弱点があるかが分かると思います。

○**鈴木市長**　文科系の人も理系を勉強し、理系の子も文科系のことも勉強することを教えていかなければならない時代になりつつあります。理系は、技術の進歩によって３年前に勉強したことが、全然役に立たないということが中にはあり、常に研鑽が必要です。理系と文系に分かれる必要はなく、相互に関連があって、文化的素養は理工系の者の発想に相当影響を与え、文科系の人も理系的な合理的な思考を取り込むことが必要です。高校や大学に行く時に備えて、バランスが取れているということが良いと思います。

学力を引き続き維持していくこと、子ども一人ひとりを伸ばしていくこと

が大切であると考えますので、学校教育課の指導をお願いしたいと思います。大変良い傾向になってきているわけであり、それを引き続き支えていくためには、次の議題になります。

２.議事（１）市教育大綱に基づく「自ら学び、自ら高める」取り組みについて ②教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために

○**鈴木市長**　議事（１）の②教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために、です。先生方が子どもと向き合う時間をどう確保するかは、大変大きな問題になっています。部活動で、先生の時間が取られて、そこで消耗してしまい、授業に集中できないという先生も中にはいると聞いております。土日の部活動はさせないというような自治体も出てきています。

事務局より説明をお願いします。

○**事務局**　以前に比べて授業の質が大幅に変わっています。自分で課題を見つけて、考え、解決していくことが求められています。そういう授業の展開を図るため、教えるのではなく、子どもたちが興味を持って課題を解決していき、加えて、協同的な作業によりコミュニケーションを取りながら行うなど、質の高い授業を構築しなければなりません。

さらに、特別な支援を要する子どもの増加への対応も必要になってきています。また、核家族が増え、地域のコミュニティーが失われつつあります。そうした中で、地域の教育力というものが低下しております。特に気になることは、承認欲求を示す子どもが増えていることです。本来、満足感は家庭で培われているはずが、それを教員に求めています。あるいは、認められたいがために、問題行動のようなことを起こす子どもへの対応が必要になっています。教師には新たな課題への対応など、様々な指導力が今必要になってきています。

課題の解決策としては、業務を減らすか、人を増やすかにありますが、業務を減らすことは難しい状況です。加えて今度、英語の時間が３５時間、上乗せされ、教材研究の対応なども膨らんできています。子どもたちと教師の信頼関係を強めるため、子どもたちの気持ちを理解する研修会もあります。また、時間増に対応するため、学校ではこれまでも随分行事などを削ってきました。そのため、学校行事で活躍してきた子どもが活躍の場を失ってきたという見方もあります。それでも、営みを整理し、統合により時間を生み出せるよう取り組んでいます。

市の取り組みとして、教員の定数改善の要望活動のほか、スクールカウンセラーを県の事業で配置していますが、県の事業に加え市でも予算を組んで、市

内全部の小中学校にカウンセラーを配置しています。また、障がいを抱えているお子さんを支援する特別支援教育支援員も配置しております。

今後は、スクールサポートスタッフ（学校支援員）を配置し、教員がやらなくてもいい印刷などの仕事をお願いし、また、部活動指導員を配置するなど、教員に代わって部活の顧問の役割をするといった制度を取り入れていけるよう検討していきたいと思います。

中学校においては、部活動が一つのネックになっており、４月に中学校の校長先生と部活動の見直しについて話し合いをしました。小学校では、４月から１２月までの超過勤務時間の平均が平成２９年と比べてまだ変わっていません。それに比べて、中学校は昨年度に比べて減っているという状況です。これは、先ほど申し上げた、４月に中学校の校長先生方が話し合いに基づいて、取り組んだ成果が現れていると思います。しかし、まだ超過勤務時間は削減していかなければならない状況にありますので、改めて、校長先生と教育委員会とで知恵を出し合う場を作っていきたいと考えています。

○**鈴木市長**　先生の過剰な働き方は、肉体的にも影響が生じてくることですが、こういう状況についてどう思いますか。あるいは、どうしたらいいのか意見はありますか。

○**沼田委員**　夜遅くまで残業している先生がいます。先生も自分たちの家庭があり、残って仕事をしているという姿を見て、残業を減らし、効率化を図らなければならないと思います。

もっと、親、保護者も協力できるところがあるかもしれませんが、カリキュラム作成や明日の授業の準備などの仕事がたくさんあり、先生一人の負担がすごく大きいと思います。

○**金子委員**　昨年度あたりから、文部科学省で働き方改革を進めていますが、医者や学校の先生の課題が最も大きいです。抜本的な改革は教職員の定数だと思います。定数を増やすのには、お金がかかります。教員を１人増やせば、何百万とかかります。文科省は働き方改革で残業をなくす支援を行いますが、定数を改善しなければ根本的な解決にはつながりません。

○**鈴木委員**　特別支援の児童・生徒が増えているという中で、特別支援教育支援員を市で雇用していますが、資格を持った人を雇用したほうがいいと思います。先日、特別支援の子どもが６人ぐらいいる教室に先生と特別支援教育支援員、そして教頭先生が入って授業を行う様子を拝見し、先生の苦労が分かりま

した。普通学級は減り、特別支援学級が増えている中で、全ての子どもたちにしっかりと学習させるため、市でお金をかけて支援してほしいと思います。先生を雇い、担任以外の先生や特別支援教育支援員が少しでも大変なところを支援することにより、先生も少しは多忙が解消されると思います。

○**鈴木市長**　財務省では、人口が減るのだから、先生を減らすことはあっても増やすことはできないと言っています。東北市長会から提案をして、全国市長会を通して要望したこともありますが、先生の定数は平行線で終わっています。思い切った政治的な決断をしなければ解決しないと考えます。

　それ以外でどうするかと言うと、部活の時間を減らす、スクールサポートスタッフを増やすなどカバーしていくのが当面、現実的なのではないかとなっています。

○**教育長**　子どものためにという部分で使命感や責任感で業務量が増加してきました。現在は、主に子どもに関わる以外の部分で業務量を削除しています。当然、職員定数の話は継続して国に要望してまいります。今、市ではスクールカウンセラーや特別支援教育支援員、学校司書が配置され、先生の負担感は少なくなってきました。このように、今後は、体育協会のスポーツ指導員やボランティア、地域の方々などがスクールサポートスタッフとして協力していただけるようにしていかなければならないと思います。

○**永山委員**　小学校では昔、先生がソフトボールを教えて学校対抗の試合を行っていましたが、現在はスポ少がその役割を担っています。例えば、プロ野球選手の経歴を見ますと、中学校で部活というより、中学校まではクラブチームで練習をし、そこから高校に入る時に一流の甲子園に行く高校を目指すという流れになっています。学力も大事ですが、プロ野球選手や一流のオリンピック選手などを育てるということも一つ大事なことだと思います。部活動では限界があるかと思いますので、ある程度、民間のクラブチームなどを育てていくことも必要だと思います。

○**鈴木市長**　定数改善は、なかなか進まないと思いますので、現状の中で何を削いでいくかです。それは、今、先生が行っていることをいかに他にやってもらうか。通常の業務でも業務量を削って、今度はどこをカバーしていくかの議論をしていかなければなりません。具体的に、中学校の校長会で話をして、超過勤務時間が減ってきたので、どこかを削っているわけです。どの部分が削られたのか、分析をしたほうがいいと思います。

○**事務局**　ほぼ部活動だと思います。午後６時半には必ず生徒を帰します。

○**鈴木市長**　先生が子どもたちと向き合う時間を増やしていかなければならないと思います。先生が疲弊したのでは、子どもたちに影響が出てしまいます。

　どこに原因があるかを分析し、様々な制約の中で、どの部分を減らせるか、あるいは減らそうとするかを整理した上で、先生の超過勤務時間を減らして、先生が子どもと向き合う時間をさらに増やしていく努力と具体的な実践を積んでいくべきであると考えます。

○**金子委員**　これは、少しずつでもやらなければならないことです。

○**鈴木市長**　大事なことなので、継続して議論したほうがいいと思います。先生には、家庭もあり、人生に関わってくる問題です。そして学校運営に関わってくる話でもあるので、結論が出るものでもないので、継続的に議題にし、データを取り分析して次回も話をしたいと思います。

３．その他

○**事務局（司会）**　次第３その他

（特になし）

４．閉会

○**事務局（司会）**

平成３０年度第１回白河市総合教育会議を閉会。